

書く人

かくひと

プロジェクトクションとは、外界の情報を認識した後、どう内面で意味つけて行動するか心の働きを解明する、認知科学の新しい概念。ひいきのアイドルやアニメなどの「推し」を熱烈に応援する「推し活」が、プロジェクトクションそのものだと言ったのが、本書の出発点という。

新しい概念といっても、人間が太古から当たり前に行ってきた営みでもある。従来の研究では、外界の事象とそれを認知する人のイメージは同じとされ、ずれた言動はエラーと見なされていたという。

推し活では、ただの物も推しのイメージカラーだと価値の高いものに変わったりする。人間国宝の茶わんと知った瞬間、ぞんざいに扱えなくなるのと同じだ。いずれも、異なる意味づけがされるプロジェクトクションが起きた結果といえる。

男性同士の恋愛や性愛を描く「ボーイズラブ(BL)」愛好者の二次創作も

「推し」の科学 プロジェクトクション・サイエンスとは何か

愛知淑徳大学教授 久保(川合)南海子^{なみこ}さん (48)



典型例。原作を基に、登場人物が恋愛関係にある架空の物語を仕立てる行動には、イメージを共有する者同士で楽しんだり、作品をさらに練り上げたりする、プロジェクトクションの特性もろかがえる。

以前、自身もBL好きだ

世界を意味づける能力

「オタクのコミュニティを見ているのが楽しかった」。人の多様性に興味があり、大学では心理学を学んだ。今の「本業」は高齢者やシニアなどにまつわる心理学の研究。学生時代にサルの行動解析で知性を研究していたこともあり、認知科学へと手を広げた。

「ホモ・サピエンスがこれだけ進化できたのは、プロジェクトクションと、特にそれを共有する能力があったから」と説明する。未来のような時間や宗教など実体がないものに価値を認めて共有できると、「リアルな領域の外の人や事物のことで協力ができ、劇的に行動規模が広がる」からだ。「プロジェクトクションは自ら世界を意味づけて生きていく力」と捉えている。「推しを推す中で人生が変わる経験をする人がたくさんいる」と力を込める一方で、戦時中のプロパガンダのように一体感や高揚感を悪用された例も多く「読者にも考えてほしい」と呼びかける。

多様性や規範、仮想空間など現代社会の課題にも有用とみられる理論。「今のところ本業には全然還元されない」と苦笑しつつも、研究にのめり込む姿は楽しげだ。集英社新書・九四六円。(松崎晃子)



2022年9月4日(日) 中日新聞 朝刊12面より
この記事は中日新聞社の承諾を得て転載しています。